

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域情報社会論 <b>Theory of Regional Information Society</b>		2年	後期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、経済学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
技術戦略経営、ビジネスイノベーション論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
長江 庸泰	本館2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
①未来社会論、②ニューメディア論、③マルチメディア論などから構成される「地域情報社会論」を1.情報(化)社会論の定義、2.情報の価値、3.ICT(情報通信技術)の歴史、4.経営情報システムの変遷、5.電子商取引、6.CRM【Customer Relationship Management】、7.地域情報化の基礎基盤、8.ICTを活用した地域活性化、9.地域情報社会・事例研究、10.地域イノベーション戦略支援プログラムの各ポイントから学習し、ICTのスキルと、その利活用を習得する。				
授業の到達目標				
①「情報社会と情報の価値」を理解することができるようにする。 ②「ICTの歴史と経営情報システムの変遷」を理解することができるようにする。 ③「電子商取引とCRM」を理解することができるようにする。 ④「地域情報化の基礎基盤とICTを活用した地域活性化」を理解することができるようにする。 ⑤「地域情報社会・事例研究と地域イノベーション戦略支援プログラム」を理解することができるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、地域情報社会論に精通した、地域社会で活躍できる人材育成を目指すものである。				
学習の成果				
①「情報社会と情報の価値」を理解し、第三者に説明することができる。 ②「ICTの歴史と経営情報システムの変遷」を理解し、第三者に説明することができる。 ③「電子商取引とCRM」を理解し、第三者に説明することができる。 ④「地域情報化の基礎基盤とICTを活用した地域活性化」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑤「地域情報社会・事例研究と地域イノベーション戦略支援プログラム」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法が身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)			
第2回目	第1章 情報(化)社会論の定義 第2章 情報の価値 : どんな情報に価値があるか? / 情報と情報化, ICT, デジタル化 / サイモンの意思決定の科学			
第3回目	第3章 ICTの歴史 (ICTを生かすためのスキル) : コンピュータの歴史/インターネットの爆発的普及 / 基礎スキル / データベース / データベース設計			
第4回目	第4章 経営情報システムの変遷 : 巨大な基幹系業務システム / e-Japan戦略 / u-Japan戦略 / i-Japan戦略 / EC / 「国家情報セキュリティ計画」 / cloud computing			
第5回目	第5章 電子商取引 : ビジネスモデル / (Electric Commerce)電子商取引の課題等 / SCM【Supply Chain Management】 / SCM: 需要と供給のマッチング			
第6回目	第6章 CRM : 定義と利点 / one2oneの意味 / SFA (Sales Force Automation) / CRMの課題 / グループワークによるプレゼン(1)			

第7回目	第7章 地域情報化の基礎基盤 : 地域情報プラットフォーム / 地域情報プラットフォーム施策体系 / 地域情報プラットフォーム背景 / 地域情報プラットフォームのイメージ / ASP、第8章: ICTを活用した地域活性化 :		
第8回目	第8章 ICTを活用した地域活性化 : 地域情報化アドバイザー / ICT地域マネージャー / 戦略的情報通信研究開発推進制度 / 自治体クラウド / 自治体CIO育成研修		
第9回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : 地域児童見守りシステムモデル事業の概要 / 岐阜市地域防災ICT利活用モデル構築事業 / ひむかスマートコミュニティー事業 / グループワークによるプレゼン(2)		
第10回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : 鳥栖(とす)市地域子育て・市民生活サポートシステム / 雲南市地域医療ネットワーク構築事業 / 生涯学習における遠隔学習システム / グループワークによるプレゼン(3)		
第11回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : ICTを活用した広域連携救急画像伝送システム事業 / 高齢者に優しい広域連携・CATV活用型見守りプラットフォーム構築事業 / グループワークによるプレゼン(4)		
第12回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : 高齢者に優しい広域連携・CATV活用型見守りプラットフォーム構築事業 / 先進予防型遠隔医療を地域に根付かせるための課題 / グループワークによるプレゼン(5)		
第13回目	第10章 地域イノベーション戦略支援プログラム : 地域イノベーションの創出に向けた主な取組 : 東日本大震災復興支援プログラム / 大学等産学官連携自立化促進プログラム / 先端融合領域イノベーション創出		
第14回目	第10章 地域イノベーション戦略支援プログラム : 北大&ビジネスパーク / 長野県スーパーモジュール供給拠点 / 浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション / 福岡次世代社会システム創出推進拠点		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の3点から評価する: ①ノートを取り、創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
レポート		30%	以下の3点から評価する: ①創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③課題の本質を理解し、まとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		40%	グループワークによるプレゼンテーション力を試験し、以下の3点から評価する: ①内容が創意工夫されてまとめ上げられている、②グループの意見が論理的に述べられている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
発表内容 (態度含む)		20%	レポート発表は、以下の3点から評価する: ①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他			上記評価基準に基づき成績評価: S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書			
長江庸泰作成の「デジタルテキスト[地域情報社会論 2013年度版]」を活用する。			
履修上の心得・ルール			
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。			